

# 文化と伝統を守り継ぐ



## 川東牛馬供養田植

五月晴れの5月13日、下豊松振興会川東で、5年に一度の伝統行事が行われた。昭和41年に、広島県無形民族文化財の指定を受け今日まで受け継いできた、川東牛馬供養田植。

“文化と伝統を守り継ぐ”という責務を負った、川東牛馬供養田植保存会の矢田貝克治会長にお話を伺いました。



「牛馬供養ですから、大山神社から大山様を呼んできて、その大山様に牛を供養していただきます」

### 田を知らない牛

「当屋<sup>うちや</sup>で神事を行い、田植踊りを舞った後、飾り鞍<sup>かぶせ</sup>やのほりをつけた牛の後に続き、田植田へ向かいます。田植田の入口に建てられた供養棚の上から神官と僧侶が祝詞<sup>のりと</sup>をあげて、まず田植田を清め、次に牛を清めます。その後、先牛<sup>せんぎゅう</sup>（先頭の牛）から田へ入り、代<sup>しろ</sup>をかきます。代のかき方にもいろいろ





るあり、今回は、鶴の樂籠もり  
を行いました」

牛馬。供養だが、現在は馬が  
いないため、牛のみで行う。今回  
は、六頭の和牛を地元の畜産農家  
が連れてこられた。

「農作業の機械化により、牛が  
田に入る事はなくなりました。慣  
れていないので、田に入るのを嫌  
がります。暴れて隣の田へ飛び込  
む牛もいました。牛が田に入り代

をかいた後、えぶり。(田をなら  
す)が入り、太鼓に続き早乙女た  
ちが入ります。早乙女が植える苗  
も清めてあり、最初の苗はそれを  
使います」

今回の早乙女は三十五名。さ  
げと呼ばれる太鼓の男衆が十名。  
太鼓頭がさらさらを持ち、拍子をと  
りながら唄う。太鼓頭が唄い、早  
乙女が躰子を入れる。その繰り返  
しで、歌詞はとても長いのだそう

だ。

「田植唄はたくさんあります。  
全部唄うと二時間以上かかる。も  
ちろん内容は全部違います。昔は、  
何も見ず全部覚えて唄い続ける人  
もいました」

### すすむ高齢化

「一番苦労したのは、高齢化で  
早乙女が少なくなったことです。

以前は、川東地域だけで行って  
きましたが、それだけでは、多く  
の早乙女を集めることはできませ  
ん。そのため、下豊松振興会全体  
へ呼びかけ、集まっていたさま  
しましたし、四名の中学生も早乙女と  
して参加してくれました」

川東地域は、現在二十八戸。保  
存会の会員は五十六名。

### 団結力で守り継ぐ

「今回は大成功でした。みんな  
良くやってくれました。川東地域  
は、「よく団結するところだ」と  
言われます。誰かが「やるぞ」と  
言っと、結構やれるところなので  
す。ですから、先人が築いてきた



せつかくのこの文化を、守り継い  
でいかなければなりません。だん  
だん人口も減っていますが、とに  
かく存続させたい。それが一番強  
い気持ちです」

次の川東供養田植は五年後。今  
回の成功を機に、ますます団結し  
て、守り継いでほしいものです。